

ひろば

Vol.106

2007.3.19.

東京工芸大学同窓会

<http://www.t-kougei.gr.jp>

〒164-8678

東京都中野区本町2-9-5

Tel 03-3372-1321

design SALAT



学位授与を受けた 新同窓会員を祝う

会長 田沼武能(24期)

平成19年に学位授与された芸術学部卒業生の諸君おめでとうございます。その多くは社会人として活躍されることと思います。社会に出るとすべて学校で学んだことの応用問題を解いていかねばなりません。また、同じ仕事をする人と競って生きてゆくこととなります。

先ず大切なことは健康です。「健全なる精神は健全なる身体に宿る」とローマの詩人ユウェナリウスが書いているように、身体が健康でなければ自分の目標を達成することはできません。もう一つ大切なことは、「夢」と「希望」を常に持ち実行することです。夢と希望に燃えている人は、人生に輝きがあります。

先日、芸術学部の卒業及び大学院修了制作展を拝見しました。開場直前の展示会場では学生たちが4年間学んだ成果を披露するべく真剣になって追い込み作業をしていました。夢と希望に燃えていました。会場が新しい芸術文化の街、六本木アカデミーヒルズとテレビ朝日um u会場とあってか、いつにない気魄にあふれていました。青春に燃えることは素晴らしいことです。卒業生のみなさんの一生の思い出として心に残ることでしよう。

また、各学科の作品が同じフロアの会場に展示できたことも、活気を生んでいました。本学

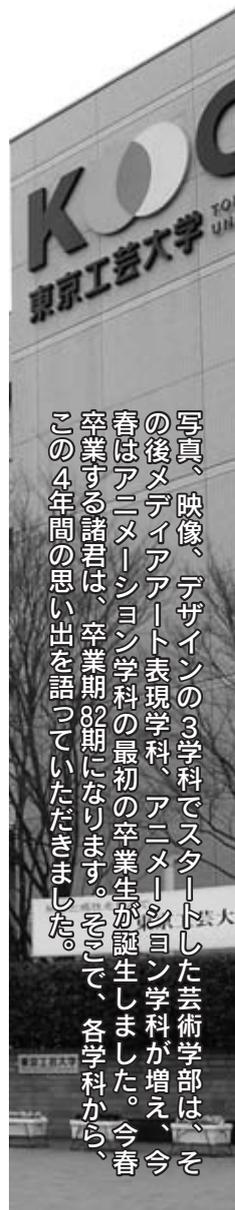
の芸術学部には、写真を始めとしてデザイン、映像、アニメーション、メディアアートなどの学科があり、これからは各学科の卒業生が連携、協力して制作する可能性も出てくることでしよう。

卒業生の皆さんは、これからは同窓会の一員になります。これまでに本学を卒業した先輩は1万7千人おり、全国で活躍しています。一時は同窓会の機能が消えそうになりましたが、昨年9月再構成して全国支部長会を発足しました。各支部が活気を取り戻し活躍することにより同窓生の輪が確立し、その輪が集合して東京工芸大学の同窓会がゆるぎないものに発展するのだと確信します。

今年10月には同窓会は創立80周年の祝賀会を計画しており、同時に80年の沿革史も発行する予定です。新しく同窓会員となった皆さまも現同窓会員の皆さまも、ともに東京工芸大学の卒業生としてのプライドを持ち、同窓会の輪をひろげて行くではありませんか。輪が和になり、ひろくは平和な社会につながることを念じます。



卒業



写真、映像、デザインの3学科でスタートした芸術学部は、その後メディアアート表現学科、アニメーション学科が増え、今春はアニメーション学科の最初の卒業生が誕生しました。今春卒業する諸君は、卒業期82期になります。そこで、各学科から、この4年間の思い出を語っていただきました。

写真学科 荊木陽子



4年間の大学生活は本当にあつという間だった。平凡かもしれないが、これが正直な私の印象だ。初めてプリントをした時、現像液の中で印画紙に画像が浮き出てきたことを思い出す。4年前に感じた驚きや感動とは少し意味が違うかもしれないが、今でも画像が浮き出てくる瞬間は緊張する。この4年間で酢酸の臭いにも慣れ、白衣の汚れも多くなり、写真と向き合う時間が増えていった。入学当時、フィルムの実像もプリントも経験したことがなかった私は、実習を楽しむ余裕はなく、緊張し、写真学科に入学したことへの後悔の念さ

え感じていた。写真が思うように撮れずに悩み、写真から離れた時期もあった。しかし、先生方が見捨てずに指導して下さい、また、友人達のサポートで無事に卒業を迎えることができた。私にとって、同級生の作品を見ることが大変刺激になった。特に4年生になってからは、ゼミの講習会で、自分の作品を見直すきっかけを得ることができたと思う。卒業制作という4年間の集大成にどう向き合ったらいいのか、正直、4年生になりたての頃には分からなかった。作品の枚数が増えるにつれて主題から逸れていくような

気がしたり、全体的にまとまらなかったり、迷ってばかりいた。今、卒業制作を終えて、自分の満足のいくものに仕上がったと言い切りたい反面、まだ掘り下げられるのではないかと、という思いもある。私は大学院進学という道を選択し、後2年間学生生活を送る。大学4年間に比べたら、2年以上以上に写真と向き合っていきたい。4年間を基盤にして、本当に納得のいく作品を制作したいと思っている。

映像学科 中村拓



春爛漫。

2002年、勝手に大人な気分になつていたもうすぐ20歳の自分。

入学前の春休みからハンドボール部の練習に参加するという勘違いっぷりから私の大学生活ははじまった。一年の後期に部長となり、雑用とお守りとしかええない仕事を毎日こなし。

今でもハンドボール部は自分にとって大切な場所だったんだと思える。みんな、本当にありがとう。

夏深し。タオルなしでは過ごせない日々。

2004年、後輩に部長を譲り、小学生のように毎日遊びまくって

た22歳の自分。

チベットや四川省を旅したことにより中国に感銘を受け、帰国二日後に留学を決めた勘違いっぷりから私の中国生活ははじまった。

中国語を覚える近道は中国人と遊び付き合うこと。一年間とことん遊んだ。これが勉強だと思つて本気で遊んだ。

日本では味わえない最高の時間を過ごすことができた。留学を許してくれた両親に感謝している。ありがとうございました。

秋惜む。

2005年、友人の多くが社会人

として働いていることに對し、理由のない焦りを気づかない振りをして

いた23歳の自分。中国から帰国し、自分なら就職活動もなんとかなるだろうという勘違いっぷりから私の復学・就職活動生活ははじまった。

こんな自分を支え助けてくれた岡村先生や諸先生方にはご迷惑をおかけしたと思つている。

5年間ありがとうございました。ようやくくめんどうきい学生が一人卒業します。

暖冬、冬とは思えない暖かさ。

2007年、もうすぐ四捨五入したら30歳のくせに、いつまでも子供

でいる24歳の自分。

内定者自主合宿や業界イベントの幹事をする勘違いっぷりから私の社会生活ははじまろうとしている。休み時間どころか寝る時間すらない研修合宿。

一見華やかそうで、まったくもってそんなことない業界。最高としか言いようがない同期。これから共に仕事するみなさま、よろしくお願ひします。

就職先 株式会社 博報堂
私は今、新しい道を進もうとしている。



カーデザイナーになる。その夢が私の大学生活の原動力でした。私は小さい頃から車の絵を描くのが好きで、高校生の時には将来の夢はカーデザイナーになると心に決めていました。東京工芸大学に入学したいと思ったのも、この大学でデザインの勉強をしたいと思ったからです。東京工芸大学に入って最初に驚いたのがレンダリングの授業で、現役で日産で働いているデザイナーの方が絵(レンダリング)の描き方を教えてくれた事です。何より現役のプロのデザイナーの絵を真近で見れたのが嬉しかったですし、とても刺激的でした。

私もいつしか自分がデザインした車を世の中に出したいという思いが日に日に強くなっていききました。大学生生活の課外活動としては、工学部と芸術学部が共同でやったEV制作が最も印象に残っています。四国のEVラリーに出場するEVカーのメカニズムを工学部が担当し、芸術学部がデザインを担当するという工芸大ならではのプロジェクトを大学2年時に熱中してやっていました。時にはデザインの事で、時にはメカニズムの事をみんな議論し、ひとつのモノを作る、モノ作りの楽し

さも工芸大学で学ぶ事ができました。このプロジェクトは就職活動時に必要なポートフォリオに自信を持つて載せる事ができました。まだまだ大学生生活での思い出は山ほどあります。私はこの大学で培ってきた知識、努力、経験はこれから社会に出ても必ず役に立つと確信しています。そして将来は、これらの事を生かして、世界中で活躍できるカーデザイナーに成長できたらと思っています。

メディアアート表現学科 内山 虹城



メディアアート表現学科は四年間厚木に閉じこめれるわけで、大学近くのアパートを借りたが最後、毎晩のように近くの養豚場の臭いに苛まれ、都会要素の何もない夜を鬱々と過ごしました。とはいえ自然あふれる環境は慣れてしまえば比較的過ごしやすく、四年目になれば養豚場の臭いも「ああ、今日もそんな時間か」程度に感じるようになりました。大学の裏にはただびろい田園地帯がひろがり、少し自転車走らせればホームセンター、スーパー、本屋、ゲーセン、ホルモンセンターがあり、山を一つ越えれば飯山温泉、いくつ

か越えれば宮ヶ瀬ダムもあり、更にならば津久井までたどり着けると、今にすれば大学生活にはもってこいの環境だったのかなと思います。ただそういう環境なので、どこに遊びに行くと言わなくてもなく四年ともなれば大学とスーパーを行ったり来たりして、月に二回くらいホルモンセンターで飲むというような生活になっていました。しかし研究という点ではそれが幸いして他の人よりかはかどつていいたと思います。専門がプログラムだったものでこういう引き籠もれる環境はとても適していました。調子の良い日は二徹くらい

してツールを一本仕上げたり、一日中大学図書館で資料を漁ったり、そういう意味ではとても大学生らしい生活でした。なんだかんだで周囲の人にも思われ、特撮監督志望の友人の手伝いでロケハンやら撮影やらをしたり、ゼミの教授の奔放な発言に感わされたり、ゼミの後輩のレベルの低い質問に頭を痛めたのもすぎてしまえば良い思い出です。後二年、大学院で研究を続けられることになったのでこの環境を上手に利用してよりよい引き籠もりライフを堪能できたらな、と思います。

アニメーション学科 飯山 菜保子



思えばこの4年間は、あつという間で、最初から最後までみんなでドタバタした4年間だった気がします。文字通りゼロからのスタートでしたから、学科の仲間とは、一緒に修羅場をくぐった戦友、という風を感じています。課題の締め切りが迫れば、お互いを励ましあったり、愚痴をこぼし合ったりしました。教室はとても居心地がよくて、普段はあまり接点のない人とも気軽に話が出るので、そのまま長居したくなりました。でも、私は1日の4分の1が通学時間でしたので、家に帰ることに急いでいたためにあまりそれを味わえず、少しの心残りがあります。ですがそれもまた一興

です。心残りといえば、厚木のうまいラーメン屋に行きたいとか、バスターミナル横のパン屋のランチを食べたいとか、豚漬けを食べてみたいだとか色々まだ残っていますが、ぼちぼち叶えていこうと思います。まだきつと学校に行ってしまうでしょうから。私はこの忙しいながらも穏やかな雰囲気の一部に触れていましたが、傍観していたところが多かったのも、なんだかんだありつつも楽しかったことをうまく伝えられるか自信がありません。そういう先生が、学校は遊びに来いとおつし

やっていたのを思い出しました。本当にそうだったと思います。学校には遊び道具と遊び仲間がいて、今日は何をするのか、何をして遊ぶのかと、そんな気持ちで学校に行っていました。徹夜で疲れていても、行けば楽しかったです。実は今もまだドタバタとしています。最後の最後まできつとそうでしょうね。ずっとそうかもしれません。それはちょっと大変ですけど、そうやって過ぎていった大学生活は、とても大事なものであることはずっと変わらないでしょう。



芸術学部卒業・大学院修了制作展2007が盛況でした

2月23日から25日の3日間開催した卒業・修了制作展は、天候にもめぐまれ、4,000人以上の方が見てくださいました。学生やご父母・友人、そして同窓生、一般の方、特に若い方がたくさんお出でくださいました。芸術学部を卒業・修了するすべての学生がこのように社会に向かってプレゼンテーションすることは、とても意義あることです。同窓会の皆様の暖かいご支援をこれからも宜しくお願い申し上げます。

広報委員会 記：阪川武志 (37期)
写真：福村 敏 (45期)

【開催日】

平成19年 2月23日(金)、24日(土)、25日(日)

【会場・時間】

六本木アカデミーヒルズ40

港区六本木6-10-1(六本木ヒルズ内40階)
地下鉄日比谷線「六本木」駅下車徒歩4分、
大江戸線「麻布十番」駅下車徒歩6分

東京工芸大学芸術情報館

中野区本町2-4-7(東京工芸大学中野キャンパス内)
地下鉄丸の内線、大江戸線「中野坂上」駅下車徒歩7分

テレビ朝日umu

港区六本木6-10-1(六本木ヒルズ内テレビ朝日本社1階)
地下鉄日比谷線「六本木」駅下車徒歩4分、
大江戸線「麻布十番」駅下車徒歩5分



開 会 式



開会の挨拶・小林信行学長

ア ニ メ ー シ ョ ン 学 科



写真学科



映像学科



デザイン学科

ヒューマンプロダクトコース



メディアアート表現学科



デザイン学科

ビジュアルコミュニケーションコース





青木 勝氏(41期)写真展

「飛鳥 南極へ行く」

2007年2月1日(木)～14日(水)
東京・新宿、御苑花忠ビル1F
フォトギャラリー・キタムラ

東京工芸大学芸術学部写真学科

卒業制作展

2007.2.9(金)～2.15(木)



富士フォトサロン
〒104-0061
東京都中央区銀座5-1
銀座ファイブ2F

協力：富士フイルム株式会社
主催：東京工芸大学芸術学部写真学科
〒164-8678
東京都中野区本町2-9-5

34期・写真工業科・同期会

(平成17年12月9日)

毎年12月の第2土曜日に絶えることなく開催してきた同期会も、とうとう25回目(卒業後47年目)という節目を迎えました。

昨今は「歳ごとに年が短くなる不思議」という川柳が身に染む、同輩の集まりでもあります。

それだけに、年に1回位はゆっくりと旧交を温めたいと思つての開催です。

さて今回は、金子隆幸氏を幹事に、表参道近くの「NHK青山荘」に16名の参加者を得て開催されました。

ここ数年間、参加者はほぼ同じ顔触れですが、互いに元気での再会を喜び、賑やかにひと時を過ごしました。

なお、次回は本年12月8日(土)に開催を予定しております。

(34期 川名・記)



出展者

| | |
|-------|--------------------------|
| 川野 美緒 | Pensée inachevéé |
| 田中美由紀 | かたいとよる |
| 井草 直子 | ソマル |
| 植松 美樹 | 夢見る無垢 |
| 荊木 陽子 | composition of particles |
| 今野 史恵 | 色香 |
| 下平 智子 | 眩暈 |
| 長島 一剛 | ELEMENTS#20 |
| 高木こずえ | mother |
| 石井 清士 | 幻想郷 |
| 大渡 陽子 | Girl quake |
| 国井 光司 | 風花 |
| 刑部 信人 | thanka～幸福の歌～ |
| 福田 康平 | 静寂に咲く |
| 鎌田 佳恵 | そこにあった確かな日々 |
| 保戸塚千真 | a dissolute burial |
| 佐伯 直俊 | ダムと人々 |
| 田中 舞 | 彼女が演じた彼女 |
| 栗原 雄貴 | 車椅子バスケットボール |
| 深瀬 暢季 | 僕らのサッカー |
| 大塚 智子 | 余命宣告 |
| 小金井邦祥 | Thoroughbred |
| 北川 美香 | アタシを連れた旅の中で |
| 野崎 里美 | event in a dream |
| 佐藤 桂子 | Arcadiafragments |
| 細井まり恵 | まばたき |
| 松枝 玄 | "ATTITUDE" |
| 袖本 花代 | 奏 |
| 弓場 楽朗 | safari |
| 鄭 有喙 | KUMA'S WORLD |
| 山下 晃伸 | 新宿～四年間の記録～ |
| 速水健二郎 | ひたすら、追い求めて。 |

大学院芸術学研究科 博士前期(修士)課程メディアアート専攻

「修士学位論文／ 修士学位作品・発表会」

平成19年2月14日(水)10:00～
中野キャンパス芸術情報館



芸術学研究科長 平山敬二教授

本年度は、12名の研究成果が発表されました。
この発表会は毎年2月に開催していて、どなたでもご参加いただけます。

同窓生の皆様、どうぞおいで下さい。

(記：阪川武志 (37期) 広報)

－発表者－

写真メディア

| | |
|-------|-------------------------|
| 伊藤 寛実 | INFORM |
| 上木 健裕 | 手触りの文化 |
| 西山 洋介 | 沈黙の鉞滓 －鶏卵紙印画技法による表現－ |
| 朴 昭穎 | 歪んだ風景 |
| 森 瑞葉 | 忘れぬ記憶 |

映像メディア

| | |
|-------|------------|
| 竹内 祥矩 | スクラップヤードの夜 |
|-------|------------|

デザインメディア

| | |
|-------|------------------------------|
| 御手洗雄介 | Spiritual creativity/「SOULS」 |
| 吉澤 玲恵 | イラストレーションと オリジナリティの追求について |
| 李 雪峰 | タオイズムによるデザイン表現について |

デジタルメディア

| | |
|-------|--------------------------------------|
| 穴山 大輔 | インターネットを利用した コピーレフトのコンテンツ配信と著作権管理 |
| 中野翔太郎 | Shi-Goto |
| 原野 豪行 | ゆめ はくちうむ |

「元学長・鎌田彌壽治先生のエピソード・資料を探しています」

鎌田彌壽治(元学長)氏の孫嫁、鎌田敏枝さんが鎌田先生のエピソードや資料を探していらっしゃいます。

鎌田先生は、みなさまも知っての通り、長きにわたり東京写真短期大学の学長を務められました。亡くなられてから年月がたっているために、最近ではほとんど情報も入らなくなっているとのこと。

現在は、鎌田先生が住まわれていた東京・荻窪の地に「衍芸館」というHall&Galleryを開館し、鎌田先生の写真技術と音楽や絵画などの芸術活動の助けをされています。

共立出版より出されていた、「写真発達史」、「写真製版術」以外の書籍や各種資料、エピソード等を所有されていたり、記憶されている方は是非連絡をお願いします。

連絡先：「衍芸館」

〒167-0051 東京都杉並区荻窪3-39-14
Tel/Fax 03-5347-2668 鎌田敏枝

以下に、鎌田先生と「衍芸館」の繋がりを紹介します。

明治16年(1883年)に徳島県に生まれ、日本の技術で染料を開発するため、京都帝国大学で化学を専攻され、のちに教職に就かれた後、東京美術学校(東京芸術大学の前身)で金属彫刻の素材の教育にあっていたが、第1次世界大戦後のドイツ、フランス、イギリスなどで写真技術の研修を命ぜられ、帰国後間もなく創立された芝浦高等工芸学校(千葉大学工学部の前身)に移り、写真技術の指導に当たった。また第2次世界大戦後は東京写真短期大学(東京工芸大学の前身)で長く学長を務めた。

写真の分野では、色彩原理などの基礎的学問の開発指導に当たり、当時の印刷技術でいかにして実像に近いカラー印刷を行うかなどを主に専門とし、「写真発達史」、「写真製版術」などを著し、「写真を撮ること」そ

のものより、いかにして撮った写真を活用するかの分野の創成期に教育面で貢献した。以上が写真技術と衍芸館のつながりである。

(鎌田彌壽治の孫、壽彦氏記)

記：福村 敏 (45期)

(東京工芸大学芸術学部・同窓会広報委員)



関西支部新年会



関西支部支部長 駕田 毅氏 (42期)

平成19年2月3日、関西支部恒例の新年会を大阪中津にありますラマダホテルにて開催しました。

本年は、写真のアカデミー賞と呼ばれるルーシー・アワード「ビジョナリ一部門賞」を2006年度に日本人として初めて受賞された29期細江英公先生をお招きし、特別講演をして頂きました。

また、関西支部各府県をはじめ山形県、愛知県、徳島県、岡山県からも同窓生が集い、40余名の参加になりました。

特別講演は、作家、作品を語ると題して、細江先生の1960年から2006年までの作品集、「おとこと女」「薔薇刑」「鎌鼬」「抱擁」「胡蝶の夢・舞踏家・大野一雄」の作品多数を、撮影意図や撮

影秘話等の解説を交えて見せて頂きました。

先生の写真家としての原点は、舞踏家土方巽氏との出会いであり、そこから作家三島由紀夫氏、舞踏家大野一雄氏へと続いた、人との出会いを大事にされていることが良く分かりました。また、先生は、ワークショップにおける外国での写真教育にも携わり、世界で幅広く活躍をされておられます。

引き続き新年懇親会は、38期滝口氏の司会、42期駕田支部長の挨拶、30期福岡氏の乾杯の音頭で始まりしました。懇談の途中には、工学部若手のピングゲームで大いに盛り上がりました。中締めは40期倉橋氏によります、大阪締めで無事終了しました。



特別講演 細江英公先生 (29期)



関西支部新年会 平成19年2月3日 於：大阪中津ラマダホテル

総務委員会よりお知らせ 富山県支部長がきまりました

富山県支部長 野崎 博氏 (44期)

どうぞ宜しくお願いいたします。

記：花川正英 (44期・総務委員会)

広報委員会よりお知らせ 2007年4月より情報受け取り担当の交代

同窓生の皆様からのご連絡を、37期の阪川武志がお預かりしてまいりましたが、この度担当を交代し、45期の福村敏委員が担当することになりました。皆様からの情報を今までのように工芸大学中野キャンパスにお送りください。どうぞ宜しくお願いします。

新しい連絡先 (2007年4月より)

〒164-8678 東京都中野区本町2-9-5 東京工芸大学芸術学部デザイン学科 講師 福村 敏 (45期)
TEL 03-3372-1321(大学代表) FAX 03-3372-1330(大学代表)
binfuku@dsn.t-kougei.ac.jp

編 集 後 記

毎日、早朝に愛犬と散歩に出かけるのですが、寒中ならではの楽しみは、遠くに真っ白な富士山を見ることです。年々山が小さくなってきているように見え

ますが、見えた日は、何故か心が安らぎます。今年の日本経済も頂上はともかく、一日も早く山裾にも心安らぐ日がくることを期待しております。

会員の皆様の近況やお仕事のことなど、お気軽に広報委員会「ひろば」に投稿していただきますようお願い申し上げます。

56期 糸賀成永